

6 人権問題に関する自由意見

問3 1 日ごろ人権問題について考えていることや気付いたことを自由にお書きください。

日ごろ人権問題について考えていることや気付いたことについて、合計 310 件の自由意見の記載があり、各意見内容を基に、下表のとおり整理・集計を行った。

■自由意見の分類

分 類	内 容	件 数	
人権問題全般	社会全体に対する意見	84	208
	人権意識等に対する意見	50	
	自分自身に関すること	33	
	行政に対する意見	24	
	教育に関する意見	17	
同和問題に関すること	人権・同和教育の重要性等	46	
女性（男女）に関すること	女性に対する固定的な見方の解消、 男女の特性を生かした役割分担等	1	
子どもに関すること	子どもが安心して暮らせる社会の実現、 大人の子どもに対する人権意識等	16	
高齢者に関すること	高齢者の人権擁護	4	
障がい者に関すること	障がい者に対する正しい理解（難病、精神障がいを含む）、 障がい者が参加できる社会づくり等	5	
外国人に関すること	外国人の就労環境、外国人の人権擁護等	5	
インターネットによる人権侵害等に関するこ と	インターネットを悪用した犯罪、人権侵害	3	
犯罪被害者に関すること	犯罪被害者の人権擁護	2	
意識調査に関すること	意識調査の必要性、意識調査の内容等	8	
	そ の 他	13	
	合 計	310	

【主な自由意見】

○人権問題全般

（社会全体に対する意見）

・自分が当事者になった時に、深くその事柄を考えることができるように、普段の生活をしっかりやって時間を作り、どうしても解決できない問題が起こった時に相談できる人間と付き合うように心がけ、機関や様々な所を利用できるような心構えを持って、日々生活していきたいと考えている。相手の立場に立てば、何が正しいかなんていくらでも変わる。人権人権と言っている人々は、まず、自分が勉強してきたことを一度見直し、社会が変われば権利が変わるようなモノを「人権」としている定義の矛盾をもっと追求すべきではないのか。

・子どもの頃もちろんですが、大人になり社会で様々な人と関わるようになってからの方が、人権問題について考えなければいけないことが多いのに、そのような機会が少ないように思う。弱い立場の人の目線で考えることのできる大人が少ないと日々感じている。

・人権の尊重・確立の基本も自助・共助・公助の順である。自助については、昔のよき日本の教育、社会常識を再考すること。正しい情報のもと、個人～地域～市、県、国～へと一貫性をもつことが必要。

・公共、学校、職場で、自然に生活できるよう、施設、体制などを充実するとともに、人々が身につけることができるようにする。あまり、人権人権というと不自然になり、意識するようになると、行動が不自然になる。

・犯罪を犯すのも人権問題。交通事故も被害者に対する人権侵害、交通ルールや交通マナーを守ることが必要。自己の権利ばかりを主張し、他人の人権を考えない人が増えていると思う。

・周りの目を気にせず、この問題にいろいろ協力や集まりに参加できるよう、そんな社会になればいいと思う。

・自分が子どもだった時に大人から聞かされたことは、人と接する時に大きな影響を与えている。なので大人たちは多くの人と接して相手のことを理解したり正しい知識を身につけて。その上で子どもたちに伝えていく必要がある。

(人権意識全般)

・常日ごろから他人に対して分けへだてなくつきあうことが必要である。弱者をいたわる心をもってほしい。

・皆が自分のことばかり言っている。権利を主張する前に責任を果たしてほしい(税金をきちんと払うなど)。「自由」ばかり言って、自由には責任を伴うことを知るべき。

・皆、平等で差別しないことを一番に生活している。いじめもなく一人一人が権利を理解したらもっと今の日々が楽しくなると思う。

・人権、人権と言いだめたのは近い過去からだと思うが、あまりに個人の人権を表に出しており、他人の権利より自分の権利のことばかり考える人間が多いと感じる。

・人権とは、難しく考えると未だわからないが、愚鈍に考えるとそれは思いやりと絆と愛との合作だと思います。この三つを忘れなければ、人権問題を理解できるのでは…?

(自分自身に関すること)

・他人の気持ちになって考えたり、行動したりするように常日ごろ、心がけるようにしています。

・性別、年齢、国籍、障がいなど関係なく、地球上に住むすべての人が助け合い、仲良く暮らせる世の中が理想で、そうなればいいと思う。人に対しても自分に対しても思いやる心を、常に忘れないでいたい。

・人権は自分自身の問題ではなく全員の権利であり、他人の人権を考えなくてはならないという思いが強くなった。

(行政に対する意見)

・社会的に立場の弱い人を救うことは、行政の大切な仕事だと思う。ただ、行政は自分の権利を不当に主張する(声の大きい方へ)目を向けがちだが、本当に社会的弱者といわれる人に目を向けてほしい。差別をなくすためには、正しい知識と、いかなる人も区別しないこと、区別することが逆差別になると理解すること。そうすれば私たちは人権において平等だが、けっして生まれた環境、能力、性別、国籍は平等じゃないとわかるところから、人権の大切さを感じたい。

・仕事上、人権はとても感じるところがあるが、実際身近に問題にされているかというところでもない。同和問題も近所の人から聞いたことはあるが、実際子どもたちの教育の中でもどれほど伝わっているのか疑問だ。このようなアンケートは、とても素晴らしいが机上で終わらず、本当に困っている人の所へ伝わるよう行政が踏み込んでほしいと願う。

・いくら「人権問題」と広報活動がされても、最近では聞きなれてきて、聞き流してきている。ただ紙面にのせたり、講演会を聞いたりするのでは参加者は限られてくるので、イベント等“物でつる”やり方でもよいと思うので、そういった場所で、自然に人権について考えられたらいいと思う。アンケートをとるにしても、長いと、つつい面倒になりがちなので“このことについてどう思うか”のように1つの事に対して思うことを書いてもらえばよさそう。これから高松にずっと住んでいく者としては、より良い高松になることを望みます。
(教育に関する意見)

・人権問題は小さい頃の教育が大切だと思う。時に学校での教育が大人になって役に立つと思う。

・道徳教育の充実、正義感、協調性を子どもの頃から、社会や家庭で生活の中で取り入れた環境をつくれれば、特に、人権問題と称して問題化することもなく、自然に人権に配慮できる人たちが増えてくると思う。

○同和問題に関すること

・私は以前同和地区にある職場に勤めていた。私は部外者の立場で親切に受け入れてくださって、その中で、差別の様々な苦しみを学んだ。「なくそう同和問題」

・子どもの頃に「あの辺りの住所には同和の人が多く住んでいる」等々良く耳にしてきました。まず、そういううわさ等をなくしていくことも大事だと思う。

・同和問題等を学校等で学習する必要があるのか疑問がある。学習することにより、そういう知識を得て、差別につながっている気がする。

・同和地区問題など、学校の授業で初めて知りました。今になって思うのですが、必要だったのかと。同和地区はどこなんだろう？という疑問がわいてきて、なんとなく新たな差別を持ってしまったような気がする。同和地区の友人がいるが、他の友人と変わらず、つきあっている。同和地区に関しては、そんな積極的な教育が必要なのかなとも思う。当事者の方で、苦勞しておられる方、辛い思いをしている方もたくさんおられると思うが、風化させても良いのではと思う。

○子どもに関すること

・子どものいじめ問題について、いじめがあった学校だけの問題にせず社会、家庭等、社会全体がもう一度見直し、新しい社会にあった、子どもの心が安定するような社会の体制が必要と思う。子どもの時からの教育に重点をおくべき。

・子どもを持つ親として、最近TVでよく言われている悪質な“いじめ”について、とても心配している。学校・地域・家庭が一体となって、子供を教育できる取り組みが充実してほしいと思う。そして親を支援する場（子育て教室のような）がもっと増えるとありがたい。

○高齢者に関すること

・地域施設（特に介護）病院等、差別言葉があるように思われる。高齢者が入居している所、見舞とかに行くと、よく耳にする。手がかかると思うが、その人の身になって、仕事をしてほしいと思う。

○障がい者に関すること

・特に「相手が自分だったら」と考えて、他人とつき合っていく必要があると思い、気をつけている。障がいを持たれた方々に対する対応について困ることもあった。でも、何もしないと「差別、偏見された」と思い違いされることにもなりかねないので、自分から研修に参加したり、ネットで調べたりして、正しく障がい者の方と接する力を身につけていきたいと思う。

○インターネットによる人権侵害に関すること

・インターネット上にある掲示板などは、「表現の自由」の範囲を超えた過激なものが急増しているように思う。顔の見えない環境、取り締まりのほとんどない自由な状況の下で、モラルを失った人達の言動、情報の流布には閉口させられる。法の下での強制力をもたなくても、互いに気持ちよく、便利に使えるものとして、本来はあるべきだが、いつまでも性善説ではいられない気がする。一児の父である。

○意識調査に関すること

・今まで人権問題について深く考えたことが、あまりなかったので、今回の意識調査で少しでも意識することができてよかったと思う。